

公共図書館における「次世代医療健康情報サービス」 の役割に関する一考察

佐藤美加

大和市立図書館（TRC 神奈川 新図書館準備業務部）

1. 公共図書館における医療健康情報サービスの現状

筆者は、約1年間公共図書館の現場を離れているが、この間に公共図書館における医療健康情報サービスを俯瞰的に見る機会に恵まれた。現在、筆者が携わっている新大和市立図書館の開設業務では「医療健康情報サービスに特化した公共図書館の実現」という全国で初めての試みに挑戦中である。「本当に市民に必要とされる医療健康情報とは何か」を追求すべく、前所属館での医療健康情報サービスの経験を踏まえながら、現状の課題とこれからの果たすべき役割について考察する。

2. 医療情報、健康情報の捉え方

2-1.医療情報とは

2-2.健康情報とは

3. 大和市立図書館が目指す「健康図書館」とは

3-1.健康と文化の関係 —新大和市立図書館の特色—

3-2.大和市立図書館における「健康図書館」の定義 —付加価値としての健康—

3-3.「健康図書館」の実現に必要とする資源・要素とは

3-4.司書の資質と役割について —“職域を超える”という課題—

4. 考察：次世代医療健康情報サービスを実現するために

4-1.次世代医療健康情報サービスとは

4-2.資料・司書の適正性の見極め

4-3.サービス計画・実行・評価・改善（PDCA）方法の確立

4-4.持続性・発展性

4-5.これからの果たすべき役割について